



校長室だより

第 4 8 号

令和4年2月21日(月)

大崎市立沼部小学校

校長 吉田 浩之

あの日を忘れない ～宮城県図書館編～

東日本大震災から11年、あの震災を経験した者は、しっかり後世に伝えていかなければならないと思います。そこで、私が経験した東日本大震災について、何回かに分けてお伝えしたいと思います。

2011年(平成23年)3月11日午後2時46分、マグニチュード9.0、最大震度7の大地震が発生しました。大津波警報も発令されました。私は、当時宮城県図書館に勤務しておりました。今までに経験したことのないような揺れ。立っていることができません。私のそばにいた歩行補助具を使っていたおじいさんが、あの揺れで腰を抜かし、床にへたり込みました。私はとっさにこの人を守らなければと思い、必死にその方の頭を抱えるようにして揺れに耐えていました。正直それくらいしかできませんでした。そのときです。私の前方10数mのところ、エスカレーターのところの吹き抜けにある、3階部分のガラスが落下してきました。飛び散った破片が私の近くまで来ました。とても怖かったです。

何度も何度も揺れがくる中で、そのおじいさんを無事に御家族の方に引き渡すことができました。県の図書館は東西方向に200mもある建物です。揺れは東西方向でした。したがって書架にある、およそ100万冊の本がほぼ落下しました。右上の写真はバックヤードにある執務室ですが、足の踏み場もないほどだったことはお分かりいただけるでしょうか。書架のある3階にいた職員は「本が落下するとき、本が空中で止まっているように見えた。」と言っていました。右下の写真は、4月8日に余震があり、その直後の一般図書フロアの様子です。再開館に向けてある程度書架に本を戻していた矢先の余震で、私も含めて、職員のモチベーションが大分下がってしまったことを思い出します。

図書館には高さ1mにもなる大型の本もあります。そんなものが頭に落ちてきたらと思うとぞっとします。そこで思ったことは、本は地震のときには凶器になりうるということです。当然そのような大型の本も落下しましたが、幸い図書館ではけが人は出ませんでした。

図書館で地震に遭遇したら、まず、書架から離れることです。壁も崩れることがありますから、壁からも離れて広い場所で、かがんで頭を守りましょう。いわゆるダンゴムシのポーズで、揺れが収まるのを待つことが大事です。揺れが収まったら、慌てずに外に避難しましょう。

